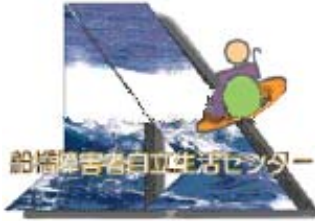


# SSKP 船橋障害者自立生活センターニュース

2002年7月20日発行 第42号



編集：特定非営利活動法人  
船橋障害者自立生活センター事務局  
〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花島ビル1F  
郵便振替「00140-9-609088」  
TEL：047-432-4554 / FAX：047-432-4565  
URL：http://www.cil-funabashi.org/  
E-Mail: cil-funabashi@cil-funabashi.org

## お台場へ行こう

このタイトルを見て、「はて？何のこと」と思う人も多いと思います。これは簡単に言いますとお台場に障害者同志でお出かけに行った時の報告書です。とりあえず「こんなこともやってんだ」という軽い気持ちで読んでみてください。

### どうしてお台場に

簡単な話、遊びたいからです。それ以外ないじゃないですか(笑)仕事や勉強もいいですが、生活にゆとりを持つためには遊びも必要だと思います。そのためにこの企画を実行しました。

### どんなメンバーが来たのか

千葉や埼玉などから友人の口コミなどを使い、ボランティアも含めると20人以上集まりました。遠い人は埼玉県の深谷市から来たりといろいろ交通機関を乗り継ぎ、『お台場に遊びに行く』その目的のためだけに集まりました。みなさんお疲れ様でした。

### 実際の行動は

まず、昼間は3つの班にわかれてそれぞれに意見を聞いて班行動で動くことになりました。私たちの班は「ヴィーナスフォートで買い物が見たい」という意見がありましたのでヴィーナスフォートに行って食事をしました。その他の班もいろいろなところに行ってそれぞれで楽しんだそうです。

食事をした後は、それぞれが店で買物をしたり、晴れていたの近くにあった観覧車にみんなで乗ったり、自由行動をして楽しみました。

それから、午後の4時にもう1回集合して記念撮影をして、希望者は残って台場小香港というお台場にできた中華街みたいところで、打ち上げをしましてそこでそれぞれの思いを話したりして交流をしました。終わった頃は、当りはすっかり夜で、お台場キレイな夜景が、わたしたちのイベントを祝福してくれているようにした。

### まとめ

このイベントはそれぞれが個性を出して、個人個人で楽しめたイベントになったと思います。この雰囲気は今までのセンターにない新しい雰囲気のものとなり、新たな可能性が私たちの中にあることがわかりました。このイベントはこの文章では本当に伝えきれないほど楽しいものがありました。文章で伝えられないのが残念です。これから遊んで見たいなあとおもっている障害者のみなさん。ここいこうに関わって見たいなあとおもっている人どなたでもかまいません今後やる活動に加わって見ませんか？私たちはこの活動に加わっていただける明るく、活気のある、そしてこのイベントを盛り上げてくれる人を心から歓迎します。

# 総会



# 理事会

# 代表

山本

このたび当センターの代表である杉井和男が諸事情からしばらくの間、わたくし山本が代表を兼務することになりました。代表のいない間のことではありますが、微力ではございますが、皆様の支えをよろしくお願い申し上げます。

事務局スタッフ一同頑張っていく所存ですのでご指導ご鞭撻のほどよろしく願いする次第でございます。

# バリアフリーガイドの調査開始

山本

当センターでは、1998年に私たちの生活にこと欠くことのできない市内の公共施設、及び交通などのバリアフリーガイドマップ調査を行いました。その調査結果は当センターのホームページ、もうひとつはマップとしてしあげ、今も多くの障害者の皆さんにご活用させて頂いております。

あれから4年が経ち、市内の町の状況も大きく変わろうとしています。来年4月から船橋市は中核都市になりますが、そういったこともふまえて今市内の景観は大きく変わろうとしています。そこで私たち当センターではこのたび2期目のバリアフリー調査を夏季の要綱で行います。

記

## 支援費参入のための準備開始

### 2002年ピアカウンセリング長期講座報告書

石栗 利之

今年も去年と同じくピアカウンセリング長期講座を行いました。夏の暑い時期から冬の寒い時期までほぼ毎週木曜日、今年も熱心に船橋市だけでなく八千代市、習志野市、千葉市といった幅広い地域から受講生が参加しました。

テーマに応じていろいろなリーダーが他の地域から応援してくれて講座は充実したものになりました。それぞれがピアカウンセリングに対して自分自身の形で理解をして、自分の言葉で伝えていたので、私自身参考になるものがいろいろありました。講座に応援してくれたリーダーのみなさんには感謝のかぎりです。

テーマにはいろいろあり、(詳しくは最後に載せてある表を見てください)人間の本质や抑圧といった私たちが普通に日常生活をおくってはいわからない事も普段感じていない事もピアカウンセリングでは重要であり、受講生の力を信じていろいろなテーマを乗り越えて行きました。

回を重ねるごとに強くなって行く仲間達の輪。受講生の取り組みの姿勢。リーダー達の言葉と受講生への見守り。すべてにいいものがあったためこの講座は良かったものとなっていました。受講生の中には「自立生活センター」を作ろうとって立ち上げの準備をしています。このような仲間1人1人の力を感じられるピアカウンセリングはかなりいいものがあると私は再認識しました。このピアカウンセリングはまたやります。もし、この文章を見てピアカウンセリングに興味を持った人がいたのならセンターに連絡してください。この素敵な世界を一緒に作りましょう。

## D P I 世界会議 I n 北海道報告書

石栗 利之

### 1. 旅立ち

10月14日DPI世界会議に参加するために羽田空港へ向かった。あらかじめJTBの旅行会社のバリアフリーツアーに頼んでいたので安心して羽田空港に行くことができました。無事、搭乗手続を終えていざ新千歳空港へ…。しかし、空港を出て待ち受けていたのは、歓喜ならぬ寒気でした。北海道についてはいいものの関東とは比べ物にならないくらい寒く、すぐにセーターを着て凍えながらホテルに向かいました。

### 2. 基調講演・シンポジウム

DPI世界会議の第1日目はジュディー・ヒューマン氏の基調講演、差別禁止法を国際レベルの法律にするために国連の条項にのせるといったテーマのシンポジウムでした。

シンポジウムはやはりいろいろな国からからきている人は、いうことがちがく、私たちより何倍も旅費をかけてくるだけのことはあるなとおもいました。

このあとは歓迎レセプションでいろいろな団体の踊りや演奏を見ながら交流をする事となりました。

### 3. 分科会

2日目、3日目は分科会となり10くらいあるテーマの中からそれぞれ選んで参加する形となりました。私は、2日目は「自立生活」「ユニバーサルデザイン(交通アクセス)」、3日目は1日とおして「リーダーシップ」に参加しました。

自立生活のテーマではアルゼンチン、韓国、日本など4つの国からそれぞれの自立生活運動の状況を話してくれました。それぞれ、日本と似ているところ、こんな大変な苦勞があるのかと思うところが聞けました。

交通アクセスでは韓国のバス側の乗車拒否にたいする運動のビデオを見ました。体に鎖を縛ってバスと一体化したり、はしごに自分の体を縛ったり「絶対ここを動かないぞ」という気迫は、ビデオを通して私たちに伝わってきました。まるで、何10年か前の日本を思いだしました。

リーダーシップではこれからリーダーになっていく人への指針みたいなものを伝えてくれました。私の中に印象に残っているのはリーダーは多くの人の想いを背負うものである事、リーダーに必要なのはカリスマだということでした。

\* 想いを背負うということ

そのレバノン人のリーダーはインド人のガンジーを例えにしてこう言っていました。ガンジーは何百万人のインド人の想いを背負って日本にインドの文化を伝えに来た、リーダーという人はその人の想いを背負わなければならないものだと言っていた。

\* カリスマ?

私はこれを聞いたとき、「えっ!？」とおもいました。ここで言う「カリスマ」とは人をひきつける人、人の話しをどれだけ聞けるかがカリスマだと言っていた。

#### 閉会式・さよならパーティー

閉会式は、D P Iの役員を決めて差別禁止法を国連の条項に載せるためのものを確認した。また、D P Iの役員も決めて、日本からは中西正司さんが会計の役割を担った。

さよならパーティーはまだ会場に残っている世界の国の方々と交流し、いろいろなステージでの演出をして楽しんだ。後半は芸のある人がステージに立って発表する場もたれ、いろいろな芸自慢の人がそれぞれ発表した。最後は輝かんばかりのドレスを着た樋口恵子さんと言う日本の代表として挨拶した。

#### まとめ

とにかく、何から何までスケールがちがいました。障害者3,000人に対してボランティアを3,000人集められる北海道の現地スタッフもすごいと思うし、日本全国からリフトカーを集めたこともすごいと思いました。

日本のレベルもたいしたことながら、私がおの中にもいることも誇りに思いたいですね。

## 3ヶ月の有料介助の報告

今年

## 事務局の動き

### 7月

- 1 ミーティング
- 2 パソコン教室
- 3 自立生活プログラム
- 5 連絡調整会議
- 8 ミーティング
- 9 パソコン教室
- 10 自立生活プログラム
- 12 事務局会議
- 15 ミーティング
- 16 パソコン教室
- 19 連絡調整会議
- 20 「みんなで海に行こう」
- 22 ミーティング
- 24 パソコン教室
- 25 支援費プロジェクト
- 26 事務局会議
- 29 ミーティング
- 30 パソコン教室
- 31

### 8月

- 1
- 2
- 4
- 5 ミーティング
- 6 パソコン教室
- 10~18 夏休み
- 13
- 14
- 15
- 16
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 25
- 26
- 27
- 28

### 9月

- 1
- 2
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 12 事務局会議
- 17 ミーティング
- 18 パソコン教室
- 19 自立生活プログラム
- 21 連調
- 24 ミーティング
- 25 パソコン教室



### 会員の皆様へ

- ・平成14年度の会費の納入をよろしくお願いいたします。
- ・また、平成13年度の会費未納の方がまだいらっしゃいます。納入を  
・お願いいたします。なお、自分の会費が支払われているかどうかの確  
・認をとりたい方はお気軽にセンターまでお問合せください。
- ・何らかのご都合で退会をご希望の方は、できるだけ早めにお知らせ  
・ください。

### カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。

前田満子様	佐野光宏様	亀沢泰様	白川順子様
山中英子様	津久井大助様	石栗緋沙子様	新田輝一様
千葉満様	松下英生様	川面マサ様	仙波恒雄様
石田三郎様	平岡はるみ様	林静誠様	川嶋徳人様
村瀬伸一郎様	清水光明様	金網喜代美様	吉峯啓晴様
小栗よね子様	山田美穂様	瓜生隆生様	田尾幸三様
福元高明・悦子様		松井様	古川市郎様
瀬能義辰様	杉田美幸様	東周三様	佐久間良夫様
昆順一様	岩瀬まさ子様	匿名様	石栗利之様
山本明様	小川里様	豊島ひろみ様	赤羽進二様
永尾伸一様	山本昇様	花島敏郎様	宮原雅子様

### 編集後記

今年は正月そうそう支援費が雪崩をおこすように上限設定が行われようとしている…。非常に許しがたい事態である。上限設定をしないということは今まで厚生労働省が言ってきたことである。この設定はとても私たちを支援する支援費制度とは言えるものではない。障害をもっている私たちのことを国政はどのように考えているのだろうか？いつも財政状況が苦しくなると、真っ先に切捨てが行われてきた。

今年は、何も変わることなく私たちの生活が以前よりよいものになっていくことを祈りたい。

(A.Y)



同封の郵便振替用紙は会費、介助料、カンパなどを  
送金していただく際にご利用ください。

発行所 東京都世田谷区砧6-26-21  
障害者定期刊行物協会  
頒価 100円